

# 南の島の希少なキツツキ ノグチゲラの住宅事情と 人の暮らしの関わり

九州支所 主任研究員 小高 信彦



写真1 イタジイの営巣木にとまるノグチゲラのメス



写真2 センダンに巻枯らしを施した例  
若い二次林ではこのような立枯れ木にノグチゲラが営巣する。

ノグチゲラは沖縄島北部やんばる地域に固有の希少なキツツキです(写真1)。繁殖には、子育てに十分な広さの巣穴を掘ることができる大きな木が必要です。また、巣穴掘りは重労働なので、適度に柔らかく掘りやすい木が必要です。森の中にはたくさん木があるのですが、ノグチゲラが巣を掘るのに適した木は意外と少ないのです。第二次世界大戦での戦災や、戦後復興期の乱伐などで、その生息地は大きく縮小しました。しかし、近年は伐採面積が減少し、森が徐々に回復してきたことで、人里近くでもノグチゲラがみられるようになってきました。

若齢の二次林で繁殖するノグチゲラを詳しく調べてみると、老齢林での主要な営巣樹種(イタジイ等)とは異なり、センダンやリュウキュウマツ、ハンノキなどを利用していました。センダンは、本州のキリのように成長の早い樹木です(写真2)。リュウキュウマツやハンノキは、樹木病害や人為的な剪定、巻枯らしなどで枯死したものでした。

営巣木が不足する若い二次林でノグチゲラの営巣環境を保全するためには、早生樹の植栽や、枯死木の確保が有効であることが分かりました。ノグチゲラを保全するためのコアエリアとなる森林を確保することで、森林と人の暮らしとの関わりの中でノグチゲラとの共存は可能だと考えられます。